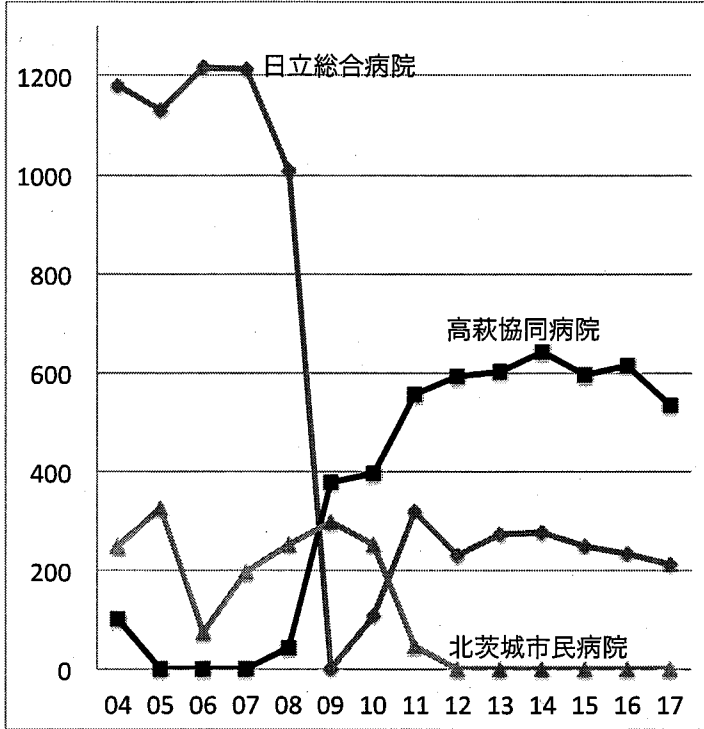


当院の周産期医療の状況と課題について

2018年12月12日

県北医療センター高萩協同病院 近藤匡

(1) 分娩数年次推移



{状況}

- 県内出生率の低下を反映して年々減少しているが医療圏内では最多の分娩数(1)。
- 常勤産婦人科医師4人+北茨城市民病院1人+県内外非常勤医師で産直体制。
- 2017年より小児科医師が不在。現在週に2回の新生児科医師が派遣され新生児が診察を受けずに退院することは回避した。火曜水曜は交渉中(2)。
- ハイリスクは紹介している。基本的に正常分娩の取り扱いのため帝王切開率は低く15%(3)。
- 常勤の麻酔医はいない。2017年までは時間外緊急帝王切開はすべて外科医師が担当。腰椎麻酔困難で全身麻酔症例もあった。2018年からは筑波大医局派遣医師に加え、他大学+民間医局幹旋医師による24時間態勢。
- 医療圏内に周産期母子医療センターがなく年間それぞれ約20件の母体搬送・新生児搬送は水戸済生会病院と県立こども病院へ。本年度は呼吸困難でドクターカー出場したものの搬送後死亡症例あり。

{問題点}

- リスク分娩も、周産期緊急もすべて水戸のみ。水戸までの救急車同乗は危険性だけでなくスタッフの不安も強い。
- 分娩時に小児科医師が不在の非常事態が続き、産科医師、助産師がリスクを負い続けている。
- 産科医師が医局から次々と派遣される体制ではなく、産直による常勤医師の疲弊が年々顕著となり"消耗戦"。
- 非常勤麻酔医の80%は筑波大麻酔科医局からの直接・間接の派遣応援が命綱となっている。安定した麻酔医体制は確約されたものではない。
- 莫大な麻酔科報酬と産科非常勤の費用を当院で負担し続けるのはすでに限界。

(2) 非常勤新生児医師

	月	火	水	木	金	土
午前		(土浦協同 清水医師)				
午後	こども病院 新生児科		(隔週 開業医)	こども病院 新生児科		

(3) 帝王切開件数 (予定・緊急)

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
分娩数	379	397	556	592	601	641	596	615	535
予定帝王切開	48	41	70	79	66	76	81	75	61
緊急帝王切開	21	34	38	29	36	24	20	18	19

{課題}

- 周産期母子医療センターの再開に向けた取り組みを加速し、年次計画を明らかに。
- センター再開に合わせ、分娩機能の地域の集約化はできないか。
- 産科医師のみならず、小児科医師、麻酔科医師の継続的な派遣について医療圏全体の課題として県に要望していきたい。